

モーツァルトハウス・ウィーン (Mozarthaus Vienna) :
天才作曲家モーツァルトの住居、生涯とその作品が一堂に

ドームガッセ 5 番地にはモーツァルトの住居があり、これはウィーンにおけるモーツァルトの住居中、現存する唯一のもので、4つの部屋、2つの小部屋、台所があります。作曲家は1784年から1787年まで、この贅沢な住居に暮らしました。「モーツァルトハウス・ウィーン」は4つの階に、天才作曲家の生涯と作品を紹介しています。ウィーン・ミュージアムの管理していたモーツァルト住居に加え、ここではモーツァルトの生きた時代と彼の最も重要な作品が紹介されています。展示の中心は、モーツァルトがウィーンで過ごした歳月で、これは彼にとって作曲や音楽活動の頂点をなすものです。見学コースは3階から始まり、まず、ウィーンにおけるモーツァルトの生活が詳しく紹介されます。ここでは、彼の住まいやコンサート会場、彼の友人や後援者、フリーメーソンでの活動、作曲家が情熱を注いだゲームや遊びの世界などが分析されます。2階の展示は、オペラ作曲家モーツァルトをテーマとするものです。1階の一連の部屋はモーツァルト一家が住んだ歴史的な住居部分で、作曲家がここに住んだ2年半に焦点を当てています。

ドームガッセ 5 番地の建物は、ミュージアムショップや地下の EU の助成による展覧会場も含め、ウィーンにおけるモーツァルト紹介の総合的なセンターとなっています。
モーツァルトハウス・ウィーン / モーツァルトの住居 (A-1010 Vienna, Domgasse 5) 開館時間：毎日 10 時～19 時。ホームページ www.mozarthausvienna.at 6カ国語版（ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、日本語）。
入場料：9ユーロ（一般）、割引料金7ユーロ（学生、シニア）、団体6ユーロ（1人）、学校クラス3ユーロ（1人）。お得なファミリーチケット（大人2名+子ども3人まで）185ユーロ、学校クラスチケットは40ユーロより。
オーディオガイド（ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、日本語、チェコ語、ポーランド語、スロヴァキア語、ハンガリー語、ロシア語）の使用料は入場料に含まれています。
音楽ファンのための、モーツァルトハウス・ウィーンと音楽の家（ハウス・デア・ムジーク）の共通入場券（コンビチケット）は15ユーロ。ハイドン・イヤー2009には3つの展覧会と3つのコンサートシリーズが企画されています。詳細は英語版チラシ「Haydn Year 2000-The programme at Mozarthaus Vienna」をご覧ください。

6才から12才の子どもの対象とするオーディオガイドに加えてモーツァルトハウス・ウィーンではファミリーおよび学校クラス向けの新しいサービスをドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、チェコ語、ハンガリー語、ポーランド語、ロシア語で提供しています。これによりモーツァルトの生涯とその作品について家族メンバーで学ぶこととなります。他国語によるこれらのサービスはEUの「カルチャー2000」助成制度により可能となりました。子ども向けのオーディオガイドは青少年少女、家族、学校クラス向けのプログラムは2008年4月から実施されています。英語版のチラシ「Mozarthaus Vienna - offer for schools」（学校クラスのためのモーツァルトハウス・ウィーン）に詳細が記載されています。
EU「カルチャー2000」助成制度により可能となったもうひとつのプログラムはラーニング・センターで、世界各国の青少年少女や一般のオーストリアファン向けに、常設展覧会の情報を提供するものです。モーツァルトハウスのプロジェクトはウィーン・ホールディング社傘下の Mozarthaus Vienna Errichtungs- und Betriebs GmbH（代表ゲルハルト・ヴィテック博士）が企画施工を担当しました。

モーツァルトハウス・ウィーン各プレゼンテーションの紹介

修復されたモーツァルトハウス建物の入口を入ると、チケット窓口とクロークのあるロビーです。その先には、ガラス屋根で覆われた中庭があり、見学コースへの出発点となります。訪れる人はまず中庭で、この場所の持つ歴史的深さと真髄に触れることができます。つまり、ここはモーツァルトハウス・ウィーンへの序曲であり、2つのビデオインスタレーションが、モーツァルトという人物と、彼が住んだウィーンへの道しるべとなります。一方では、この建物の歴史が語られ、他方ではモーツァルトのウィーン到着がビジュアルで紹介されます。ここからエレベーターで3フロアにわたる見学コースへ上がることができます。まず3階からご覧ください。

3階の見学コース：モーツァルト時代のウィーン

この階の見学コースの出発点は「……この街は私の仕事にとって世界で最良の土地だということを保証いたします……」というモーツァルトの証言です。つまり、ウィーンにおけるモーツァルトの個人的・社会的環境が中心テーマです。最初のコーナーでは、市街の様子が紹介されます。モニター・インスタレーション（床にはめ込まれたものと設置されたもの）が、モーツァルト時代のウィーンの俯瞰図を示しています。市街図の上をアニメの虫眼鏡が移動し、モーツァルトが住んだ場所で止まります。更に、当該地の風景が紹介されます。次の部屋では、ウィーンにおけるモーツァルトの関係者が紹介されます（作曲依頼者、後援者、助手、友人、劇場関係者など）。続くインスタレーションのテーマは、「モーツァルトとその時代」です。ショーケースではモーツァルト時代の歴史的出来事が紹介されます。2つのモニターは「1781～1784：啓蒙思想の炎」「1785～1788：嵐の前の静けさ」「1789～1791：フランス革命」の3つの時期におけるヨーロッパ各地の出来事を画像で紹介します。これと並行して、各時代に関連する展示品に照明が当てられます。

ドームガッセとシューラーシュトラッセの間のコーナーでは、モーツァルトとフリーメーソン思想の結び付きが掘り下げられます。ここでは、当時の大ロジェで保管されていた貴重な品々がオリジナルで展示されています。3階の最後のコーナーは、モーツァルトの性格の幾つかの側面にメスを入れるものです。浮かれ者、遊び人、快楽主義者、ファッション・マニアなど……。加えて、エロチックな時代のスリリングな楽しみも紹介されます。マルチメディアの覗きからくりは、モーツァルト時代の玩具を再現しつつ、現代に移し変えられています。覗き穴からは、幾つかのリアルに設定されたシーンが見られます。その中心は、モーツァルト時代のエロチックなイラストをアニメ化したもので、モニターに映し出され、覗きからくりの締め括りとなります。このエロチックな覗きからくりの横にはインスタレーション「グラーベンのニンフ」が設けられ、扉を通ると、そこはエロチックな「グラーベンのニンフ」の世界です。モーツァルト時代のウィーンで、昼も夜もグラーベンを徘徊した紳士や売春婦などが、立体的な街風景の中に蘇ります。

2階の見学コース：モーツァルトの音楽的世界

2階の見学コースは（ここでもモットーは「私の仕事にとって最良の土地」）まず、当時のウィーンでモーツァルトにとって最も重要な作曲家やライバルの紹介から始まります。続く3つの部屋では、ダ・ポンテがリブレットを執筆した3つのオペラ「フィガロの結婚」「コジ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」に焦点が当てられます。これらの部屋の天井には、歴史的な漆喰装飾が残っています。また「フィガロ」の部屋に見られる壁画は新たに公開されたもので、この建物の歴史的な内装を垣間見る手掛かりとなります。次のコーナーではレクイエムが紹介されます。

最後の部屋では、モーツァルトの作品中恐らく最も著名なオペラ「魔笛」が紹介されます。「魔笛」ルームは全体を締め括るハイライトで、見学コース中最も豪華なものです。これを表現するのはマルチメディアのインスタレーション「魔笛 - 神々の哄笑」です。大規模な劇場模型の舞台には、1791年から今日に至るまでの「魔笛」の様々な場面が、コラージュを加えた3Dシーンで紹介されています。様々な監督によって映画化された「魔笛」のシーンも投影され、これも投影されたパパゲーノが紹介します。これらは「背景」を構成する5つのモニター、更に天井からの5つのモニターと特殊スクリーンによるものです。4分間の音楽的ポップは、「魔笛」の最も重要なアリアを組み合わせましたものです。舞台や室内の照明は、映画と並行して変化します。この印象的なマルチメディア展示を案内するのは、時代を超越した人気者パパゲーノです。

1階のモーツァルト住居

上階の展示の後には、モーツァルトが家族と共に住んだ部屋の数々で、そこには不思議な歴史の香りが漂っています。これはモーツァルトが住んだ数々の住居の中で最も広く豪華で、最も高価なものでした。しかも唯一現代へと残された貴重なものです。内部には4つの部屋、2つの小部屋、台所があります。モーツァルト

は1784年9月末から1787年4月末まで、ここで暮らしました。この2年半の間に「フィガロの結婚」など極めて重要な作品が生み出されています。過去60年余、この住居は様々な展示スタイルによって一般公開されてきました。この限られた空間の中で、従来は、最大限「総合的な」モーツァルト像が紹介されてきました。新たなモーツァルトハウス・ウィーンでは、2つの階が展示フロアとして付け加えられ、これらのフロアでは、当時のウィーン、モーツァルトの人生と作品が紹介されます。つまりモーツァルト住居では、従来と異なり、この優雅な住居で作曲家が過ごした期間に焦点が当てられています。中心となる問いは、これらの部屋で、モーツァルトと家族は、どのように暮らし仕事していたかということです。

見学者の想像力に働きかける展示

確たる手掛かりは僅かです。作曲家所有の家具がほとんど残されていないばかりでなく、当時それぞれの部屋がどのように使われていたかを記した資料もありません。そこで、新たな展示では、見学者の想像力に問い掛ける様々な疑問が提示されています。モーツァルト住居で最もオリジナルな歴史的部分は、つまり部屋ごとの空間だけです。しかも各空間について科学的裏付けのある資料はありません。想像力の出発点は、部屋のプロポーシオン、扉や窓に注目することです。まず浮かんでくる問いは次のようなものです。音楽サロンはどこだったのでしょうか？使用人はどこで眠ったのでしょうか？

「探索」の手掛かりとなるのは、物語や様々な状況資料です。これは絵画や資料のみならず、モデルやビデオとして紹介されています。モーツァルト一家のものではありませんが、同時代の厳選された家具も置かれ、参考展示（タイム・ピース）として、往時の室内を思い描く手掛かりを提供しています。

選択の基準となったのは、モーツァルト没後に作成された遺品目録です。その一例は、最近ウィーン・ミュージアムが購入したゲーム用テーブルで、これはチェスやトリック・トラックなどのゲームに利用されました。もうひとつの例は豪華なフルート時計で、1790年頃制作されたものです。この時計は、モーツァルト住居のハイライトで、「小さなオルガン・ローラーのためのアンダンテ」（KV616）のヴァリエーションを奏でます。この作品をモーツァルトは、この時計のために作曲した可能性もあります。さらに、これまでモーツァルト住居にあった展示品も、新たなプレゼンテーションの中に組み込まれています。

新たな展示コンセプトへの挑戦

作曲家の住居は、従来「音楽家記念館」と呼ばれてきました。そこには、崇敬の対象たる作曲家ゆかりの地への巡礼といった意味合いが込められています。ウィーンのモーツァルト住居は、そうした巡礼地感覚から離脱しています。すでに1995年、建築家エルザ・プロハツカによる新たな展示コンセプトが導入され、ここでは歴史的裏付けのない「懐古趣味」に対する批判精神が出発点となっています。従って2006年の課題も、1995年の分析的レベルを引き継ぐことです（幾つかの理性的な展示は、そのまま残されます）。加えて、新たな評価の視点と情報を提供し、モーツァルト「探索」への見学者の積極的な参加を呼びかけることです。この新たな展示コンセプトに挑戦したのはウェルナー・ハナック（基本コンセプト）、ウルリケ・シュプリングとヴォルフガング・コスです。展示のデザインはクリゾ・ラインフェルナーが担当しています（リヒトヴィッツ・ビューロー・フュア・ビジュアル・コミュニケーション/プロペラーZ）。

展示空間の活性化と新たな展示デザイン

私立の財団法人ズーハーの所有する建物の活性化は建築家クラウス・ベッカーが担当、また展示フロアとイベント会場に関する内部拡張は建築家グスタフ・ピヒルマンが担当しています。これらの工事に先立って、両建築家と連邦文化財保護局との密接な共同作業により、建築史的な包括的調査が実施されました。この調査結果が、内部のデザインにも大きく反映されています。建物の大半は、展覧会および博物館として利用されています。これにイベントのための多目的ホールと機械室・事務室などが加わります。4階と最上階は従来通り個人の住宅で、これは建築当初から今日に至るまで、この建物本来の機能なのです。

建物の以前の入り口は、モダンな入り口ホールとなり、地下2階のドーム型地下室は多大の費用をかけて乾燥・改修され、多目的ホールとなっています。カール＝ベルント・クイリンクの音響デザインによって、バロック時代の楽器による室内楽コンサートに必要な条件が満たされています。地下2階のドーム型スペースのひとつは2007年末、EUの「カルチャー2000」助成を受け、ラーニングセンターのために整備され、モーツァルト研究者や学校プログラムのために利用されています。

パウラツェンガングと呼ばれる典型的な回廊を有する中庭も改修された後、ガラス屋根で覆われ、新たな博物館の入り口ロビーとなります。この中庭も、博物館の一部に組み込まれています。カフェの新しい窓の隣にはショーケースが設けられ、2つのモニターによって、モーツァルトのウィーン到着の模様と建物の歴史が紹介されます。中庭で人目を引くのは床から1階のパウラツェンガングの下の部分まで届く記念柱

で、ここでも2つのモニターが、オーディオビジュアルに、建物と見学コースについて詳しく紹介しています。

モーツァルトハウスの見学コースは3階から始まり、かつてベレタージュと呼ばれた1階のモーツァルト住居で終わります。プレゼンテーションの中心は、モーツァルトがウィーンで過ごした10年余の歳月です。この時代に彼は数多くの名作を生み出し、音楽史上に揺るぎない独自の地位を確立しました。モットーとなっているのは、モーツァルトが父レオポルトに宛てた手紙の一節です。「……ここは、素晴らしいところです。これは私が保証いたします。つまり、この街は私の仕事にとって、世界で最良の土地です。」各階のプレゼンテーションには、それぞれの重点テーマがあります。見学コースが始まる3階ではモーツァルトと彼の生きた時代が分析され、続く2階では最も名高いオペラ作品とレクイエムが紹介されます。続く1階がモーツァルトの住居です。上部の2つの階には常設展のほか、3つのコーナーに、モーツァルトの人生や作品と密接にかかわるオリジナルな品々や自筆楽譜などが交替で展示されます。

建物および2階、3階の展示フロアの建築学的構成

モーツァルトハウス・ウィーンの大半部分は、展示/博物館フロア、イベント会場、事務室・機械室などに利用されます。3階より上の階は個人住宅で、この建物本来の機能を受け継いでいます。展示とプレゼンテーションには1、2、3階が充てられ、とりわけ1階のモーツァルト住居は、他の展示フロアから区別されています。

「フィガロハウス」のモーツァルト住居を、父レオポルトは「家に相応しい全ての装飾を備えた美しい住まい」と表現しています。事実、どの階の住居にも、飾り漆喰や壁画など、市民の住宅には例外的な豊かな装飾が施されています。今回の修復で新たに公開された壁面も、これを実証しています。各室の壁面には、約250年の間に、40までの上塗り層が確認されています。新たに公開された壁面は枠組みと壁（描かれた石）からなり、とりわけ良く保存された例で、その下には以前の12層の上塗りがあり、その一部は僅かな痕跡が残るのみです。この壁面は既に19世紀初頭のものですが、それ以前やモーツァルト時代の壁面装飾が取り入れられています。こうした装飾には「描かれた石」以外にも、「描かれた絹の壁布」や、花やストライプの模様も用いられています。

車寄せにも当たる入り口では、アーチ型の複雑に入り組んだ丸天井が、ほとんどそのまま残されています。入り口の右側に広がる歴史的な中庭は、抜本的に修復されました。グランドフロア（日本式1階）にはチケット窓口、カフェ、ミュージアムショップへの入り口があります。地下1階には機械室、入居者の物置、モーツァルトハウス・ウィーンに属する衛生施設などがあります。地下2階には多目的ホールがあり、2007年秋にラーニングセンターが設けられました。地下2階の音響は、ベルント・クイリンク博士が担当、さらに古い煉瓦造りによるアーチ構造を保存するよう工夫されています。壁面下部の傷みのひどい部分は、白とグレーのプレートで新たに外装され、ここには空調機器が収められています。また白とグレーのプレートは、修復された外装の白とグレーに対応するものです。壁面上方は、上塗り無しで煉瓦積み「内部」が見えるようになっています。

2階、3階の見学コースは、ほぼ完全に、往時の間取りの通りに構成されています。各室には「展示家具」が置かれ、展示品の並ぶ大きな「ついたて」は、歴史的な建築空間に臨時に置かれたような印象を与えます。この「ついたて」や家具の間には水平のバンドが渡され、様々な木枠の図版や展示品が、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの人生と作品について紹介しています。

モーツァルトハウス・ウィーンのマルチメディア演出

モーツァルトハウスのオーディオビジュアル・インスタレーションは、最新のメディアテクニックと、モーツァルト時代の「魔法の世界」からインスピレーションを得たものです。写真や映画の発明から数十年遡る当時、視覚的な実験や「だまし絵」、自動装置、からくり仕掛けなどが流行し、当時の人々を驚かせました。こうした歴史的背景を現代のメディアが受け継ぎ、モーツァルトの生活と社会的環境を、視聴覚の面から紹介します。

すでにガラス屋根の中庭で、ビデオ＝サウンド・インスタレーションが、見学コースへのイントロダクションとなります。マルチメディアのルートは見学コースの最上階へと続き、モーツァルトが「黄金時代」を過ごした市内各地を含め、当時のウィーンを俯瞰します。

小さな「覗きからくり」とプロジェクション・パノラマのテーマは名高い「グラレーベンのニンフ」で、18世紀後半の社会におけるエロチックなアバンチュールを紹介するものです。「フィガロ」をテーマとするビデオインスタレーションでは、古いパズルの原理と、モダンな美学やビデオ技術が融合しています。締め括りは、マルチメディアによる「魔笛」への賛歌です。書き割りやプロジェクション、照明効果による舞台装置の中で短縮版「魔笛」が、1791年から現代までの「ヴァーチャル・ミラーオペラ」として登場します。また、史上名高い映画化のシーンが一部は実際に、一部はヴァーチャルな舞台装置として紹介されます。時代を超越した人気者パパゲーノがプロジェクションとして空間を動き回り、「魔笛」の最も重要なアリアを紹介します。

思い出の場としての「記念館」から思考の場へ - プロペラーZ/リヒトヴィッツによる
モーツァルト住居の展示デザインについて

モーツァルトの伝記には伝説となる要素が多く、また彼の音楽には、低俗化あるいは通俗化への可能性が秘められています。両者が相まって、作曲家没後のスーパースター礼讃が広まる原動力となりました。これに対し新たな展示では、歴史的な場所の有する独自のキャラクターを基礎に、無駄な要素を除き、静寂と親密な雰囲気の中で、出来合いのイメージ提供を避け、訪れた人自身が、モーツァルトについて独自のイメージを作り上げられるよう工夫されています。つまり住居内で最も重要な展示品は、間取りと空間そのもので、部屋の配置や通路、視覚的アングル、窓枠、壁の漆喰装飾、暖炉などが中心に据えられています。このため、電気のコンセントなど目障りな要素を極力避け、目立たない場所で最低限の範囲内に収められています

18世紀後半の雰囲気を正確に伝えるようなオリジナル家具は、ひとつも残されていません。モーツァルト一家が住んだ当時、どの部屋が何に使われていたかを記したものもありません。エアコン、台、ショーケース、照明器具など新たに加えられた要素は、歴史的な空間の一部と混同されてはなりません。使用されているのはガラス、ブリキ、換気用の格子、亜鉛メッキのスチールなど、通常の素材で、色彩も周囲に溶け込むように工夫されています。見学コースに沿って天井には配線用ラインが設けられ、照明その他の機器は、その中に収められています。

グラフィック展示の場合、現代の専門家のコメントなどは、現代のスタイルに合わせて展示されています。ただ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトと父レオポルトからの引用のみは、時代に相応しく、大きな文字の手書きで表示されています。

モーツァルトハウス・ウィーンおよび
ウィーン・ミュージアムのモーツァルト住居

Mozarthaus Vienna

mit WIEN MUSEUM Mozartwohnung

A-1010 Vienna, Domgasse 5

毎日 10 時～19 時

19 時以降の特別入場も可能です。

Tel.: +43-1-512 17 91

info@mozarthausvienna.at

www.mozarthausvienna.at

入場料

通常 9 ユーロ

割引 7 ユーロ

グループ 6 ユーロ

学校のクラス (14 才まで) 3 ユーロ

ファミリーチケット (大人 2 人 + 子ども 3 人まで) 18 ユーロ

学校クラスチケット (1～9 学年、25 名まで) 40 ユーロ

学校クラス・プログラムチケット (1～9 学年、25 名まで) 60 ユーロ

学校クラス・チケット (10 学年以上、25 名まで) 75 ユーロ

学校クラス・プログラムチケット (10 学年以上、25 名まで) 95 ユーロ

オーディオガイド、子ども用オーディオガイドの使用料は入場料金に含まれています。

音楽の家 (ハウス・デア・ムジーク) の共通入場券 (コンビチケット) 15 ユーロ



Culture 2000

With the support of the Culture 2000
programme of the European Union

モーツァルトハウス・ウィーン チーム

代表: Dr. Gerhard Vitek

2階と3階:

内容コンセプト: Joachim Riedl

技術担当: checkpointmedia AG

建築的デザイン: Arch. Gustav Pichelmann

グラフィック: buero8, Studio B.A.C.K.

オーディオガイド: Alfred Stalzer, Isolde von Mersi, Joachim Riedl

1階 - ウィーン・ミュージアムのモーツァルト住居:

内容コンセプト: Werner Hanak (基本コンセプト), Ulrike Spring, Wolfgang Kos

展示デザインとグラフィック: Lichtwitz - Büro für visuelle

Kommunikation/propeller z, Arch. Elsa Prochazka (1995)の「ガイスターメーベルン」による

オーディオガイド: Werner Hanak, Wolfgang Kos, Ulrike Spring

子ども用オーディオガイド: Werner Hanak, Nathalie Lettner

モーツァルトハウスの修復: Arch. Klaus Becker; Arch. Gustav Pichelmann

音楽的アドバイス: Martin Haselböck

オーディオガイド制作: Artex Acoustics

ホームページ: scharf_net

コーポレート・デザイン: Justus Oehler, Pentagram Berlin

広報&マーケティング: Alfred Stalzer

モーツァルトハウス修復参画企業

プランニング・修復: Arch. Klaus Becker

施工企業・建築士: Voitl & Co Baugesellschaft mbH

プランニング/内装: Atelier Gustav Pichelmann

建築監督: ARGE Fröhlich & Locher / A & G Galli

スタティック: Fröhlich & Locher, Hr. Neid

音響: Quiring Consultants

内部照明コンサルタント: Ing. Wiltschko GmbH

外部照明コンサルタント: Fa. Furtner

自然石加工: Wolfgang Ecker Ges.m.b.H.

石灰岩: Schubert Steinzentrum GmbH

木材による内装・床の板張り: Tischlerei Kases

塗装: FSS Facility Services

電気機器インсталレーション: Fleck Elektroinstallationen Ges.m.b.H

暖房・配水: Molin

家具製作: Cserni Wohnen GmbH

金属部分: Metallbau Kamper GmbH

修復と古い壁面復元: Hans Hoffmann

額縁: Kunstwerkstadt

モーツァルトハウス・ウィーン チェックポイント・メディア インсталレーションチーム

コンセプト	Sigrid Markl	
アートディレクター	Virgil Widrich	
テクニカルディレクター	Stefan Unger, Ralph Ortner, Mattias Schnellberger	
プロジェクトマネジメント	Virgil Widrich, Martin Wesian	
コンテンツプロジェクトマネジメント	Catrin Neumüller	
プロダクションマネジメント	Stefan Reiter	
	Renate Haider	
マルチメディア インスタレーション		
パヴラッセチェンホーフ		
モニター 前奏曲 & メーキングオブ		
ウィーンのモーツァルト住居		
モーツァルトの時代背景		
フィガロ	Oleg Savtchenko	Storyboard, Kreation & Animation
	Wolfram Zöttl, MFA	Technical Media Consultant
ラーリーショー	Martin Reinhart	Planung, Umsetzung & Gestaltung
	Nikolaus Jantsch	Animation
	Katapult, Wien	Holzarbeiten
グラーベン	Hans Kudlich –	
	Studio für temporäre	
	Architektur	Entwurf und Ausstattungsleitung
	Verena Steinschaden	CAD-Planung
	Franz Gebetsberger	Konstruktion und Theatermalerei
	Georg Ausweger	Modellbau
	Lothar Hüttling	Modellbau
	Adam Stecker	Modellbau
	Walter Rafelsberger	Video & Motion Graphics
魔笛	GTT-Gunther Auer	Animation & Video
	Klaus Karlbauer	Bühnenbild
	Hannes Simmerl-Burgis	Bau der Bühnenobjekte
	Alfred Reiter	Ton
	Volkmar Geiblinger	Kamera
	Radek Hewelt	Papageno
	Schlosserei Zoubek	Stahlbau
サウンドデザイン	highhat media Ton- und Bildstudio	
リサーチ & オーソリゼーション	Catrin Neumüller	
エンジニアリング	Robert Richlik	
	Werner Schlossarek	
	Johannes Schmidmayr	
	Herbert Schmitt	
	Emanuel Sonnleithner	
スタッフ	Valentin Berger	
	Lukas Litzinger	
	Natalie Ramler	
	Felix Siglreithmaier	
	Nicole Stadler	
IT 関連	Milo Christov	

詳細お問い合わせ：

モーツァルトハウス・ウィーン 広報&マーケティング：
 PR-Büro Dr. Alfred Stalzer, A-1040 Wien, Weyringergasse 17/2
 Tel.: +43-1-505 31 00, Mobil: +43-664- 506 49 00, Fax: +43-1-505 31 00-16
 e-mail: alfred.stalzer@aon.at, www.mozarthausvienna.at

ウィーン・ミュージアム モーツァルトの住居：

Presse Wien Museum:

Mag. Peter Stuibler; Tel.: +43-1-505 87 47 – 84019, Fax: +43-1-505 87 47 – 7201

e-mail: peter.stuibler@wienmuseum.at, www.wienmuseum.at

Mag. Barbara Wieser; Tel. ++43-1-505 87 47 – 84 068, Fax +43-1-505 87 47 – 7201

e-mail: barbara.wieser@wienmuseum.at; www.wienmuseum.at

その他:

MOZARTHAUS VIENNA Errichtungs- und Betriebs GmbH

Dir. Dr. Gerhard Vitek, Tel.: 512 17 91-20, g.vitek@mozarthausvienna.at

および Wien Holding GmbH:

Dir. Peter Hanke, Tel.: 408 25 69-10, p.hanke@wienholding.at

A-1010 Wien, Universitätsstraße 11

編集締切：2008年10月